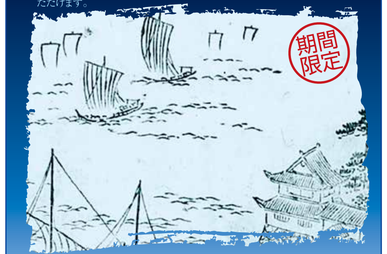
KUWANA'S SUIGO BOAT TOUR

桑名水郷 舟めぐり

かつて水上交通で栄えた桑名。例年、春に行われる舟めぐりでは、市内を流れる水路をゆったりと周遊し、「水郷のまち」桑名の歴史や文化を体験していただけます。



桑名城お堀めぐり

東海道唯一の海路、七里の渡しは多くの浮世絵に描かれています。桑名城の石垣跡・市内の水路・豪商諸戸家の邸宅の前へと舟が進みます。

満開の桜が舟から楽しめます。

お問い合せは 桑名市観光協会 TEL 0594-41-2222
https://www.city.kuwana.lg.jp/kanko/event/spring/spring003/index.html

桑名萬古

沼波弄山(1718～1777)によって作られたのがはじまりです。三重県の伝統工芸品の指定を受けています。

桑名盆

丸盆にかぶらの絵が描かれたもので、白河藩主松平定信にこよなく愛され、幕府にも献上されています。

桑名鋳物

桑名での鋳物の始まりは極めて古く、戦国時代といわれています。伝統ある技術で、幅広い分野の製品が作られています。

桑名の千羽鶴

桑名の千羽鶴は、一枚の紙から複数のつながった鶴を作る折り方です。江戸時代に長島寺の住職・魯縞庵義道(ろこうあんぎどう)によって考案されたもので、折り方が市の文化財に指定されています。

桑名のおすすめ！工芸品・特産品

しぐれ煮

主に魚介類をたっぷりの醤油で浮かし炊きにながら、佃煮風に調理したもの。佃煮とは違い、柔らかい食感が特徴です。

蛤

「その手は桑名の焼き蛤」の掛詞で知られる桑名の蛤は、江戸時代からの名物。今でも多くの店で蛤料理を味わうことができます。

安永餅

江戸時代以降、東海道を行き交う旅人に親しまれてきた桑名を代表する銘菓です。細長く伸ばした餅のなかにあんこが入っています。

酒・ビール

古来より米の交易港として栄えた歴史より、良質な米が手にはいることから酒造りが行われました。

たがね

昔より桑名で親しまれている厚焼き煎餅。たまり醤油での味付けも伝統の味です。

アイス饅頭

ミルクとあずきを材料にしたアイス饅頭は、桑名のソウルフード。昭和レトロなアイスとして注目されています。お店ごとに食べ歩くのも楽しいです。

おでかけ前にまずコチラ、目的地の情報満載！
わお！マップ Take Free
わお！マップ 東日本版 / わお！マップ 中日本版 / わお！マップ 西日本版
https://wowmap.jp わおマップ 検索
わおステーション
わおマップは右記の高速道路 SA わおステーション専用ブースで！
(関東エリア) 海老名 東名高速道路 海老名 SA 下り線内
(中部エリア) 岡崎 新東名高速道路 岡崎 SA 内
(四国エリア) 四国 高松自動車道 津田の松原 SA 下り線方
専用リーフレットスタンド（宝塚北 SA/ 新名神高速道路）

広告掲載のお問い合せ・お申し込みは 英公社株式会社 790-0831 愛媛県松山市山田町1386-5 TEL.089-977-9333 FAX.089-977-9345 https://wowmap.jp
◆2024年11月1日調整 KI:2800 2024.12
◆この地図は英公社株式会社(阪梅所有)発行の最も新しい地図を調製したものです。いかなる形式においても、著作権者に無断で、この地図の全部または一部を複製し、利用することを固く禁じます。
◆この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の50万分の1地方図を使用したものである。

Profile Map

三重県 桑名市

24 KUWANA CITY
プロフィールマップ / 三重県桑名市(みえけん くわなし)
もっと、まちを知ろう！もっと、まちを楽しもう！

多度大社

桑名石取祭(ユネスコ無形文化遺産)

本多忠勝像

ひと目でわかる情報マップ！地域やまちの魅力満載！
https://wowmap.jp
わおマップ 検索
英公社株式会社

しあわせ祈願
白馬伝説

多度大社

〒511-0106 三重県桑名市多度町多度1681番地
TEL:0120-37-5381
Instagram 繁がらない場合 TEL:0594-48-2037 / FAX:0594-48-5381
ホームページ

No.1

多度祭 上げ馬神事

(三重県無形民俗文化財)

上げ馬神事は、多度大社の例祭である多度祭において、毎年5月4日・5日の両日行われる奉納行事です。その起源は南北朝の頃に始まり、武家豪族ならびに、氏子達が古式のまま神様に奉納する行事として行ってきた。しかし、織田信長の兵火に罹り約40年の間中断している。徳川家の時代となり、本多忠勝公が桑名城主につかえ神社の再興を図し、第2代城主・本多忠政公により特参が復興され、多度祭・上げ馬神事が再開されました。この頃より御厨制度が確立し、広大な祭事となって今日に至っております。
多度祭の上げ馬神事は、神六いによって選ばれた青年騎手が人馬一体となり境内にある上げ坂を駆け上がる躍動的な祭りです。この神事は、御厨と呼ばれる上げ馬神事を奉納する地区により、五穀豊穣や国家安寧の願がこめられ奉仕され、時代に合った形を模索しながら現代まで受け継がれております。

しあわせ運ぶ神の馬 白馬伝説

古くより馬は神の使いであり、願いを届け入々に幸せを運ぶとされてきました。その願いを神に届ける使者の役割を果たすのが、古来神体山と仰ぎ祀ってきた「多度山」に1500年以上前から棲むといわれる白馬です。
多度山の小高い丘の上には、遠くに広がる街並みを見はるかせ、人々の折節の喜怒哀楽を静かに見つめている白馬の姿がうかがえたと聞きます。天福3年には翼を与えようと、その姿を変えて神の僕へと走りあるとき、人の幸せや出会い、喜びを乗せて、再びこの地へ舞降りてくる言い伝えられています。
そのあと、しあわせを願う参拝者が一年を通して数多く詰めます。また、全国的にも珍しい生きた神馬「錦山(きんざん)号」が毎日二参仕しており、おやつのにんじんをあげることが出来ます。